

令和 6 年度「学校教育自己診断」の分析結果及び考察

○令和 6 年度における質問項目の設定

経年での変化を観察するため、昨年度と同様の質問内容とした。

○アンケートの回答方法

保護者向けには配布したプリントを回収して集約した。生徒・教員向けはGoogleClassroomで回答しスプレッドシートで集約した。A B C D E の 5 段階での評価とした。

○アンケートの実施方法

保護者向けには 1 1 月に配布した。生徒・教員向けも 1 1 月にClassroomで実施した。

○回答数

	総数（回収率）	（参考）令和 5 年度
生徒アンケート	137（96.5%）	133（94.3%）
保護者アンケート	131（92.3%）	135（95.1%）
教員アンケート	61（100%）	63（100%）

※今年度は、昨年度より生徒の回収率が高くなった。

○生徒アンケートについて

肯定率の平均 84.3%（昨年度87.3% 3.0ポイント低下）

回答 1年46 2年46 3年45 計137

昨年度より全体的な肯定率が3.0ポイント下降した。特に学校として根幹となる「学校に行くのが楽しい」の項目が約8ポイント下降し約75%であった。1、2年生は8割程度を維持しているが、3年生で約65%となり一昨年度と同程度となった。3年生は否定的意見の数は変化がないが、肯定的意見の生徒が「どちらでもない」になったことが影響している。3年生は、「担任の先生以外にも気軽に相談できる」や「先生は私たちの障がいについてよく理解してくれている」の評価が他の項目に比べ低い。今後は当該学年中心に生徒理解を深めるよう、全体、個別のケース会議を実施することや日常の学校生活での関りを増やすなどの方策を検討していく必要がある。「先生は、いじめについて～真剣に対応してくれる。」が2ポイント上昇した。今年度よりいじめアンケートを年1回から3回に増やし、よりきめ細やかに対応できるようにしたことも寄与していると考えられる。

○保護者アンケートについて

肯定率の平均 83.9%（昨年度83.8% 0.1ポイント上昇）

回収率は3ポイント低下したが肯定率が0.1ポイント上昇した。項目別でみると「子どもは、授業が分かりやすく楽しいと言っている。」が83.2%と昨年度から10ポイント近く上昇している。生徒アンケートでも80%以上が肯定的な回答をしており、グループ別の授業を展開するなど個に応じた指導・支援を充実させてきたことが良い影響を及ぼしていると考えられる。「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」は昨年度より8ポイント低

下し、62.6%であった。特に1年生で肯定的回答が50%程度であったことが影響している。今後は、教員向けの研修などを行い、生徒の実態に即した効果的な活用ができるようになっていきたい。

○教員アンケートについて

肯定率の平均 87%（昨年度比3ポイント低下）

昨年度に引き続き、回収率100%を達成できた。「目的に沿って研修に主体的に参加し、成就感を得ることができた」の項目が7%低下した。昨年度、支援研究部を中心に各種研修会を充実させ、8%上昇していたが今年度は研修の回数がやや少なかったことも影響していると考えられる。外部講師を招へいするなど、教員の負担が過度にならない工夫も必要である。「生徒の状況について共通理解することができている」「生徒の人権を尊重し、日常の教育活動を行っている。」などは変わらず90%以上の高い肯定意見が保たれている。